

観光・科学・野生動物保全をつなぐ The Tourist Scientist Project の挑戦

観光客の活動を、科学と保全の力へ

一般公開・参加無料

日時	2026 年 9 月 26 日（土） 13:00～16:30（12:30 開場）
会場	東京大学農学部 中島董一郎記念ホール（東京都文京区弥生 1-1-1）
	← 当日参加も可能ですが、できるだけ事前登録をお願いします 講演者への質問や、総合討論で取り上げて欲しい質問・話題はこちらから

このシンポジウムで考えること

野生動物保全に必要なデータ・資金・人材が不足する一方、自然保護地域には多くの観光客が訪れています。観光客を単なる消費者ではなく、科学研究や自然保全の担い手としてとらえる「ツーリスト・サイエンティスト・プロジェクト」の可能性を紹介します。ケニアの保全現場、西アフリカの事例、日本における市民参加型の観察研究を通して、観光客の力を生かしながら、観光・科学・地域社会・保全をつなぐ新たな可能性を考えます。

主 催：日本学術会議統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同ワイルドライフサイエンス分科会、
環境政策・環境計画分科会、自然環境分科会

共 催：科学研究費 国際共同研究加速基金(海外連携研究)「民間保護区と公的博物館の連携による野生動物保全手法の創発」（23KK0198）

お問い合わせ: 実行委員会 be.touristscientist@gmail.com

PROGRAM

13:00	開会挨拶・趣旨説明	松本 晶子（日本学術会議連携会員／ 琉球大学国際地域創造学部教授）
13:15	OECD をめぐる国際的議論と地域の保全現場 からの経験・教訓の共有	香坂 玲（日本学術会議連携会員／東京 大学大学院農学生命科学研究科教授）
13:35	People Powering Conservation: Scientists and the Public Together Can Transform Our Understanding of the Natural World （保全を動かす人々：科学者と市民の協働が 自然界への理解を変える）	Prof. Daniel I. Rubenstein（Class of 1877 Professor of Zoology, Emeritus） ／同時通訳
14:15	衛星データから見る野生動物と自然環境： 市民参加による観察の可能性	祖父江 侑紀（奈良女子大学理学部 助教）
14:35	休憩（20 分）	
14:55	From Safari Tourism to Biodiversity Stewardship: Kenya's Community Conservancy Model （サファリ観光から「自然の守り手」へ： ケニアが進める地域共生型の保護モデル）	Dr. Mohanjeet Brar（Managing Director of Gamewatchers Safaris and Porini Camps）／同時通訳
15:35	ギニアの精霊の森におけるチンパンジー保全 ：野生動物保全の文化観光としての可能性	山越 言（日本学術会議連携会員／京都 大学大学院アジア・アフリカ地域研究 研究科教授）
15:55	総合討論 観光はどのように野生動物保全に貢献できるか	司会：松本 晶子 討論者：大沼 あゆみ（日本学術会議連 携会員／城西大学経済学部特任教授・ 慶應義塾大学名誉教授）、安田仁奈 （日本学術会議連携会員／東京大学大 学院農学生命科学研究科教授）、講演 者全員
16:25	閉会挨拶	香坂 玲
16:30	閉会	